

## 『愚かなふるまいに戻らないように』

吉田真司

「今が平穏でも、明日が同じだとは限らない」・・・これは先週12日にロシアのプーチン大統領が国境防衛のために語った言葉です。「平穏」を脅かしているのは一体誰なのでしょう。

79回目の終戦記念日の聖書日課は次の一節でした。「わたしは神が宣言なさるのを聞きます。主は平和を宣言されます。御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に、彼らが愚かなふるまいに戻らないように」(詩編85:9)。この詩編85編は礼拝の中で会衆によって唱えられたものと言われます。礼拝の民は、まず過去の罪を想起し、にもかかわらずその咎を覆い、許してくださった主なる神に賛美をささげます(2-4節)。それに続くのは切々たる苦難の中からの願いです(5-8節)。過去を想起し、そしてその救いの恵みが、今現在にも与えられるはず、との信仰がここにあります。その信仰をもって「再びわたしたちに命を得させ・・・私たちをお救いください」(85:7-8)と祈るのです。そして続くのが冒頭の9節です。その後段の「彼らが愚かなふるまいに戻らないように」との言葉が心に響きます。そしてある言葉が重なって感じられます。それは「過ちは繰返しませぬから」(広島平和公園・原爆慰霊碑の言葉)です。広島大学平和センターの川野徳幸センター長は、核兵器が使われる危険性が消えない今だからこそ、碑文の意味を考える姿勢が重要だと話しています。この「過ちは繰返しませぬ」の主語は誰なのか、その議論は長年繰返されてきましたが、碑文を考案した作者は、主語を「私たち」と捉えていた、と聞きます。その英訳はこうです。*For we shall not repeat the evil.*

Weとは誰のことを指しているのか、川野センター長はこう述べています。「『私たちは過ちを犯した』とすればどのような過ちを犯したのか。これらを問い続けることが、後世を生きる我々の宿題だと考えるのが健全だと思う。もしかしたら、過ちをもう1度繰り返すかもしれないから、そうしたことのない社会や世界を築いていこうというところまで思いが至れば、碑文があり続ける意味はさらに大きくなるのではないかと。」

## 教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、		青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

## 日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&amp;FAX046(274)3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>